

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題」については、正答率 83.8%で、県の正答率を 10 パーセント以上、上回っている。無答率も 2.3%と、県の平均である 8%と比べると低くなっている。

《情報の扱い方に関する事項》

- 「情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題では、正答率 72.2%で、県の平均を 8.5%上回っている。
- 無答率が 0.9%で、県の平均より 0.1%上回っている。

《我が国の言語文化に関する事項》

- 「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができるかどうかをみる」問題では、正答率は 88.9%で、県の平均を 7.6%上回っている。無答率も 0.9%と、県の平均 2.0%より 1.1%下回っている。

《話すこと・聞くこと》

- 問題数 3 問のすべての平均正答率が 72.2%と、県の正答率 66.5%を上回っている。特に「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる」問題では、正答率 78.7%で、県の平均を 7.2%上回っている。
- 「目的や意図に応じて話題を決めたり、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題では無答率が 1.9%と、県の平均を 1%上回っている。

《書くこと》

- 問題数 3 問のすべての平均正答率が平均正答率 77.5%と、県の正答率を上回っている。特に、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文書の構成を考えることができるか」の問題では、平均正答率 78.7%と、県の平均を 12.3%上回っている。また、この問題の無答率は 0.0%である。
- 「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題については、県の平均を 3.8%上回るにとどまっている。

《読むこと》

- 問題数 4 問の平均正答率が 65.7%と、県の平均正答率を 8.2%上回っている。中でも、「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて趣旨を把握することができるかどうかをみる」問題は、66.7%の正答率で県の平均正答率を 13.3%上回り、「目的に応じて文章と問題などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題は、65.7%の正答率で県の平均正答率を 12.2%上回っている。
- 「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる」問題については、県の平均を 0.2%上回るにとどまっている。

《児童質問紙 国語に関する質問》

- 68.3%の児童が「国語の勉強は好き」だと答えており、93.1%の児童が「国語の授業の内容はよく分かる」と回答している。これはいずれも県の平均値より約 10%上回っている。

- 「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれているか」という問いに対しては88.1%の児童が「伝えてくれる」と回答しており、「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれているか」という質問に対しては、83.2%の児童が「教えてる」と回答している。

【 算数 】

《数と計算》

- 問題数8問の平均正答率は68.9%で、県の平均正答率を5.4%上回っている。中でも、「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し計算することができるかどうかをみる」問題では12.9%、「伴って変わる二つの数量の關係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では11.6%、「異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる」問題では8.5%と、この三問において県の平均正答率よりも特に高い正答率である。この三問はすべて短答式を含むを記述式回答である。
- 「棒グラフから、項目間の関係をよみとることができるかどうかをみる」問題では1.4%、「伴って変わる二つの数量の關係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる」問題では、1.2%、県の正答率よりも低い値となっている。この二問は選択式回答である。
 - 「数直線上で1のメモリに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」問題では、平均正答率は41.7%と県の平均正答率よりも3.6%上回っているが、無答率が3.7%で、県の平均は9.0%と比べると5.3%低い数値ではあるが、算数のすべての問題の中で一番高い値となっている。

《図形》

- 問題数4問の平均正答率は60.2%で、県の平均正答率を4.4%上回っている。中でも、「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題では、県の平均正答率を12.5%、「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では6.8%、県の平均正答率を上回っている。

《測定》

- 問題数2問の平均正答率は63.4%で、県の平均正答率を8.3%上回っている。特に、記述式回答である「伴って変わる二つの図形に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、県の平均正答率を11.6%上回っている。

《変化と関係》

- 問題数3問の平均正答率は65.1%で、県の平均正答率を5.2%上回っている。
- 「伴って変わる二つの数量の關係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる」問題の選択式回答では、県の平均正答率を1.2%下回っている。

《データの活用》

- 問題数5問の平均正答率は66.3%で、県の平均正答率を3.1%上回っている。『測定』『変化と関係』と共通の領域になっている問題「伴って変わる二つの図形に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では11.6%、「簡単な二次元の数から、条件にあった項目を選ぶことができるかどうかをみる」問題では5.6%、県の平均正答率を上回っている。
- 「棒グラフから項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる」選択式回答問題では1.5%、

『変化と関係』と共通の領域になっている「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる」選択式回答問題では1.2%、県の平均正答率を下回っている。

《児童質問紙 算数に関する質問》

- 「算数の勉強は好きだ」と回答した児童は73.3%、「算数の勉強は得意」と回答した児童は71.3%で、県の平均回答率と比べると、それぞれ14.6%、11%上回っている。
- 「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動を行っていますか」という問いには、「行っている」と回答した児童が県の平均より多いものの、「行っていない」と回答した児童が24%見られた。

【 理科 】

《「エネルギー」を柱とする領域》

- 問題数4問の平均正答率は47.5%で、県の平均正答率を3.3%上回っている。
- 「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる」問題では5.7%、「電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」問題では5.6%、県の平均正答率を上回っている。
- 「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる」問題では4%、「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる」問題でも4%、県の平均正答率を下回っている。

《「粒子」を柱とする領域》

- 問題数6問の平均正答率は52.6%で、県の平均正答率を0.9%上回っている。
- 「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる」問題では正答率69.4%で、県の平均正答率を5.5%上回っている。
- 「エネルギー」を柱とする領域と共通の領域の「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる」問題では4%、「『水は温まると体積が増える』を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる」問題では、正答率65.7%で、県の平均正答率を0.6%下回っている。

《「生命」を柱とする領域》

- 問題数4問の平均正答率は53.0%で、県の平均正答率を1.8%上回っている。
- 「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題」では11.2%、「発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」問題では10.5%、県の平均正答率を上回っている。
- 「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる」記述問題では、正答率が16.7%と、県の平均正答率を14%下回っている。

《「地球」を柱とする領域》

- 問題数6問の平均正答率は73.0%で、県の平均正答率を6.4%上回っている。また、すべての問題で県の平均正答率を上回っている。
- 「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる」問題は11.3%「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」問題は9.7%、「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことを関連付けて、知識を概念的に理解して

いるかどうかをみる」問題では5.9%、県の平均正答率を上回っている。

《児童質問紙 理科に関する質問》

- すべての質問事項で、県の回答結果と比べて、理科の学習に対して好意的な回答が高くなっている。
- 「理科の勉強は好きか」は82.1%で県の回答結果と比べて12.6%、「理科で学習したことを普段の生活の中で活用できているか」は74.3%で、県の回答結果と比べて11.4%、「理科の授業では問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）をくんがえているか」は99%で県の回答結果と比べて11.2%、「理科の授業で観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか」は86.1%で、県の回答結果と比べて10.8%と、この質問事項以外の回答率も、県の回答結果と比べて10%近く上回っている。

～～ここまで～～

◎児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

<基本的な生活習慣を問う項目について>

- 「毎日同じくらいの時間に寝ているか」という質問に対して87.1パーセントの児童が「寝ている」「だいたい寝ている」と答えており、県の平均を6.1パーセント上回っている。
- ★すべての質問項目で県の平均値を上回り、良好な結果となっていることから、家庭での基本的な生活習慣がしっかりと身につけている児童が多く、日常生活の中で落ち着いて過ごせている様子が見えてくる。

<学校生活について問う項目について>

- 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問には97パーセントの児童が、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」の問いに対して、76.3パーセントの児童が、「学校に行くのは楽しいと思うか」の質問には93.1パーセントの児童がプラスの回答をしており、それぞれ県の平均より、5.2%、8.2%、6%上回っている。
- 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか」の質問に対して、99パーセントの児童がプラスの回答をしており、県の平均を7%上回っている。
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか」の質問に対して、86.1パーセントの児童がプラスの回答をしており、県の平均を7.2%上回っている。
- ★これらの結果から、児童は友達や先生と良好な関係を築き、自ら内省しながら、より良い学校生活を目指して取り組もうとする児童が多いと考えられる。

<学習への取り組みについて問う項目について>

- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」という質問に対しては、95.1%の児童が肯定的な回答をしており、県平均を16.1%上回っている。
- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか」という質問に対しては、92.1%の児童が肯定的に回答しており、県平均を10.7%上回っている。
- 「読書は好きか」という質問に対しては、77.2%の児童が肯定的に回答しており、県平均を9.4%上回っている。
- 「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」という質問に対しては、90.1%の児童が「行っていた」と回答しており、県平均を11.6%上回っている。

- 「学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」という質問に対しては、92.1%の児童が肯定的に回答しており、県平均を16.2%上回っている。
- 「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるか」という質問に対しては、91.1%の児童が肯定的に回答しており、県平均を8.9%上回っている。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか」という質問に対しては、95.1%の児童が肯定的に回答しており、県平均を9.5%上回っている。
- ★これらの結果から、児童は、教師や友人との信頼関係のもとで、主体的に学習に取り組む態度を形成し、学習内容を自ら振り返り、次の学びにつなげたり、生活に生かしたりしようとする姿勢が育っているといえる。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

◎引き続き、児童が自ら目標を立てて学習を進め、対話を通して学びを深め、自分の考えを構築していく「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりを進める。その際、話をしっかりと聴くことや、自分の考えを文章で表現するなどの言語活動に特に重点を置いて指導する。また、主体的・対話的な授業を支える学級経営や児童指導を充実させ、児童同士のつながりを育むよう努める。

◎調査結果から、本校の正答率は全体的に県平均を上回り、無答率も県平均を下回る傾向が見られた。特に国語の正答率が高く、算数においても記述問題の正答率が高く無答率が低かったことから、高い国語力が基盤となり、すべての教科における理解の深さにつながっていると考えられる。今後も各教科において、聴く・話す・書く学習活動に重点を置き、国語力の一層の向上を図っていく。

◎本校の6年生児童は、家庭や学校における生活習慣が安定し、友達や教師との信頼関係の中で安心して学校生活を送っていることがうかがえる。また、学習面においても、学んだことを自ら振り返り、次の学びや実生活に生かそうとする主体的な学習態度が育っていることが分かった。今後は、これらの良好な傾向をさらに伸ばすために、以下の点に重点を置いて指導を充実させていく。

- ・児童が自分の考えを根拠をもって表現し、他者と意見を交わす活動を一層充実させる。
- ・各教科等の学習で培った力を、実生活の課題解決や探究的な学びに結びつけられるよう指導を工夫する。
- ・教師が児童一人一人のよさや努力を的確に認め、学びへの意欲や自己有用感を高める場面を意識的に設ける。
- ・家庭との連携を図り、生活習慣の定着や学びを支える環境づくりを継続して推進する。これらの取組を通して、児童がより主体的に学び、互いを尊重しながら共に成長していく学校づくりを進めていく。